

2019年9月27日

海外活動支援委員会 世界を知る小テスト (ミャンマー)

ミャンマー小委員会 担当委員

問題作成 (三宅 立郎 (技術士))

回答作成 (森山 浩光 (技術士))

- Q1. ミャンマー国の正式名称を記載してください。
A1. ()
- Q2. ミャンマーの国土面積は、日本の国土面積の約何倍でしょう？
① ほぼ同じ面積、 ②約2倍、 ③約3倍
A2. ()
- Q3. ミャンマー国の人口は、約何百万人でしょう？
① 3400万人、 ②5400万人、 ③7400万人
A3. ()
- Q4. ミャンマー国の首都の名前を書いてください。
A4. ()
- Q5. ミャンマーに隣接する国を書いてください (5か国あります)
A5. ()
- Q6. 標高が最も高い山は、富士山より高いでしょうか、低いでしょうか？
約何メートルあると思いますか？
A6. 高い/低い (約 _____ メートル)
- Q7. コメの生産量は、日本より多いでしょうか、少ないでしょうか？
約何万トンあると思いますか？
A7. 多い/少ない (約 _____ 万トン) 日本は約800万トンです。
- Q8. 一人当たりGDPは約何ドルでしょうか？
A8. (約 _____ ドル/人・年)
- Q9. 一人当たり月賃金は約何ドルでしょうか？
A9. (約 _____ ドル/人・月) 日本は、2800ドル/人・月以上です。
- Q10. かつて、英国領であったミャンマーは、ビルマと呼ばれていましたが、
ミャンマーに国名を変えました。その意味を書いてください。
A10. ()

答1. ミャンマー連邦。

1948年の独立以来、ずっとミャンマーと言っていたのに対し、国際社会では、英語名称の「Burma」（ビルマ、バーマに近い発音です）が用いられてきました。1989年6月18日に変更しました。

答2. ミャンマーの国土面積は、約67万6,600km²であり、日本の約2倍（1.8倍）です（回答は、②）

答3. ミャンマーの人口は、約5,400万人です。（回答は、②）

多民族国家で、人口の6割をビルマ族が占め、ビルマ語が公用語です。他にカレン族、カチン族、カヤー族、ラカイン族、チン族、モン族、シャン族、コーカン族などの少数民族もいて、独自の言葉を使う民族も多いです。

答4. ミャンマーの首都は、2006年に国の中央に移転し、名前はネピドーです。

1755年から2006年までは、ヤンゴン（敵を克服したという意味）が首都でした。その後、イギリスとの戦争により1824年から下ビルマは、イギリスの植民地になりました。ヤンゴンは、イギリスの政治、商業のハブとして栄えました。

1950年から1980年の間に、首都の面積は約600平方キロに増えましたが、インフラに種々の問題を抱え、人口増加と雨季に常に排水不良で水が溜まる問題もありました。

新首都のネピドー（面積約7,000平方キロ）は国土の中心にあり、人口も少なかったため、土地の利用も容易にできました。

ラングーンという地名が有名ですが、現在のヤンゴンのことです。

成田空港からヤンゴンまでの直行便で、行きは約8時間、帰りは約6時間かかります。

答5. ミャンマーに隣接する国は、西から時計回りに、インド、バングラデシュ、中国、ラオス、タイの5か国と接しています。南西にベンガル湾、南はアンダマン海に接しています。

答6. ミャンマーでもっとも標高の高い山は、カカボラジ（Hkakabo Razi）といい、標高は5,881mあります。富士山より2,000m以上高い山です。

東南アジアでの最高峰でもあります。かつての造山運動の橋の部分に当り、ネパールのヒマラヤへつながります。

答7. ミャンマーの大農業国で、広い国土面積と二毛作が可能な気候の恩恵を受け、**コメの生産量は、2,600万トンを超えています**（2008～2010年はピークで3,200万トンを超えていました）。現在でも日本の3倍以上の生産量です。コメの消費量も一人当たり210kgと多いです。

コメの輸出は、1960年代初めは年間150万トンを超え、世界第一位のコメ輸出国でしたが、近年は減少し、タイ、インド、ベトナムが輸出を増加させ、上位を占めています。

答8. ミャンマーの一人当たりGDPは、**約1,300ドルです（2018年）**。

東南アジアを通る東西回廊や、中国と結ぶ南北回廊の高速道路が開通し、東南アジアの最後のフロンティアと呼ばれ、海外からの投資も増加しており、今後の成長が見込まれています。

答9. ミャンマーの大学卒業者の一人当たり月賃金は、**約300ドル**です。大学を卒業したエリート層で2万円から7万円ですが、一般には7千円以下の人も多くいます。

答10. ミャンマーの国名は、「**強い国**」を意味します。

1989年当時のソウ・マウン軍事政権の国家秩序回復評議会が、1989年5月に内外の記者団を集めて、今後は国名にミャンマーを使うと宣言し、6月18日から実施しました。

母国語の発音に忠実な名前にすべきだというのが、表向きの理由です。

ミャンマーとは、ビルマ語で「強い国」を意味します。